

《標津町の観光産業の波及効果をより高めるために》

●現状の課題

- ・町内消費額の伸び悩み
- ・宿泊施設の低単価
- ・大量消費を促す大型観光施設が少ない
- ・情報提供の不備
- ・特徴ある土産品の品揃えが少ない
- など

●現状の評価点

- ・リピーター客(標津ファン)の存在
- ・サーモンフィッシングなど個性ある体験メニューの定着
- ・飲食などへの高い評価
- ・地域HACCPによる標津のイメージ
- など

●標津町の観光産業の今後の発展に向けて

1. 町内消費額及び消費機会増大に向けて

- 例えば…
- ・リピーター客の維持と、新規宿泊客を増やす努力を
 - ・道の駅のような消費と情報提供が可能なワンストップ型施設の検討(大型消費装置の確保)
 - ・特産品を生かした土産品の開発
 - ・町内での消費機会の創出(近隣町村での消費を町内に振り向ける努力を。観光客特性に対応した営業時間・営業スタイルの検討のほか、水産物加工品直売所の看板設置やマップなど情報提供を)
 - ・買い物ツアー、朝食ツアーなど、町内消費機会を創出する新商品開発とセールス(特色があり人気が出そうな朝食ツアーなどは宿泊客に限るなど、消費拡大の仕掛けづくりを)
 - ・情報提供による消費機会の増大(事前の料理メニュー情報提供や、飲食店等の情報提供による消費機会の増大)

2. 標津ブランドの確立に向けて

- 例えば…
- ・リピーター、ファンが多いことを有効に活用し、地域HACCPを活用した地域ブランドづくりを(地域HACCPにより1割増の価格でも購入すると結果が、これを生かして標津らしいモノ、サービスの確立を)
 - ・エコツアーメニューの充実(標津町の顔として馴染みあるサーモンフィッシングの経験を生かして、海釣りなど他のフィッシングメニュー開発による周年化とセールス。湿原、史跡などオホーツク文化と連動させたポー川史跡公園の効果的なPR法の検討など、現在ある資源の有効活用)
 - ・郷土文化のPR

3. 観光産業の特性を生かして

- 例えば…
- ・観光産業による町内への経済波及効果について、町民への啓蒙と、もてなしの心の基盤づくり
 - ・横断的な産業である観光産業の特性を生かした他産業との連携体制づくり(観光客が利用する施設での情報提供と、施設間の情報交換など)

◇◇ 観光経済波及効果はこれだけ高まる ◇◇

CASE 1

土産代購入金額単価が小樽並みになれば経済波及効果は1.5倍に

(経済波及効果は19億8,425万円(6億495万円の増加)、雇用効果は174人(26人の増加)に。)

→観光客の需要に見合う魅力ある土産品開発により経済波及効果は大きく伸びます。

CASE 2

来訪者数はそのまま日帰り客の1割が宿泊すれば雇用効果は1.5倍に

(経済波及効果は17億3,136万円(3億9,661万円の増加)、雇用効果は229人(81人の増加)に。)

→来訪者数は増えなくても宿泊客を増やすことで経済波及効果は高まります。特に雇用効果は大きなものがあります。

<お問い合わせ先>

釧路公立大学地域経済研究センター

FAX: 0154-37-5376 E-mail: r-center@kushiro-pu.ac.jp

標津町商工観光課

TEL: 01538-2-2131 (代) FAX: 01538-2-3011 E-mail: kankou@shibetsutown.jp

標津町における観光産業の可能性を探る

—観光消費による経済効果分析研究の概要—



公共投資の削減、構造改革による競争原理の導入など、地方にとって厳しい環境の中で、足元の地域資源を活用し、外からやってきた人々の消費を受けとめることのできる観光産業に対して、多くの地域で重要性が認識され始めています。しかし、その一方で、観光客によってもたらされる地域への経済的な効果は、その実態が不透明でもあります。

現在、標津町の近隣である知床地域では、世界自然遺産登録への動きなども見られており、エコツーリズムなど、観光産業への期待は大きなものがあります。

そこで、このたび釧路公立大学地域経済研究センターは標津町と共同して、同町の観光消費の実態を探るとともに、観光産業の可能性と今後の取り組みに向けての手がかりを得ることを目的に、観光消費による経済効果分析研究を実施いたしました。ここでは、その結果概要をご紹介します。

研究代表 釧路公立大学教授・地域経済研究センター長 小磯修二

標津町ってどんなところ？

標津町は、人口約6,300人、阿寒国立公園と知床国立公園に挟まれた水産業と酪農業を基幹産業とするまちです。特に水産業では、サケのまちとして知られ、道内初のサーモンフィッシング調査実施のほか、近年ではサケ・ホタテ製品の衛生管理を町独自の基準で管理する地域HACCPを導入するなど、積極的な取り組みを行っています。



位置及び面積
面積 624.46km²
位置 東経 145°15'
北緯 43°28'

2004年5月

釧路公立大学地域経済研究センター
標津町

標津町の現状

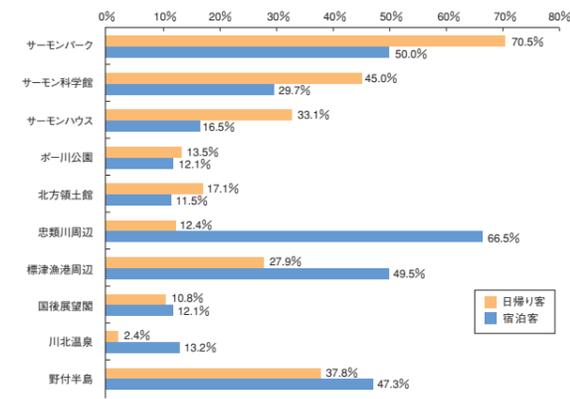
標津町の観光客は日帰り客が多く、宿泊客は関東圏・男性・複数泊が多い

- 標津町の観光入込実人数は、宿泊客が8,526人、消費を伴う日帰り客数は、92,284人。
- 観光客来訪時期は夏～秋が中心で平均泊数は2.23泊。釣り客に限ると平均泊数は2.60泊、釣り客以外は1.65泊。
- 宿泊客は66.5%が、日帰り客は53.6%がリピーター客。
- 関東圏の30～60代で、釣りを目的とした男性客が多い。
- 夫婦や友人など、2人旅行が約半数。
- 個人旅行もしくはサーモンフィッシング付きのフリープランで来町する人が多い。
- 町内の立ち寄り個所ベスト3は、宿泊客では忠類川、サーモンパーク、漁港付近、日帰り客ではサーモンパーク、サーモン科学館、野付半島。
- 情報源はガイドブック、インターネット、観光パンフレット、口コミなど。

標津町への過去訪問回数



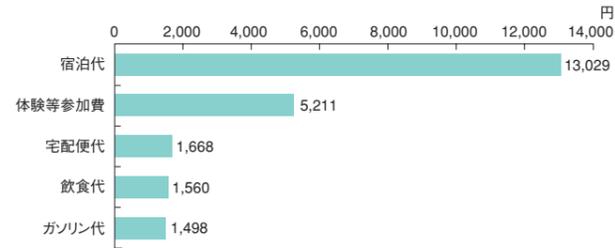
町内の立ち寄り個所 (複数回答)



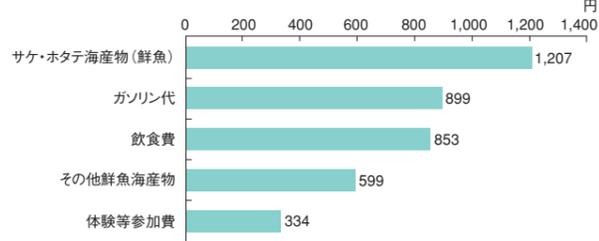
標津町における観光消費は、宿泊客の消費単価が大きい

- 観光客一人当たりの消費単価は宿泊客で、29,404円、日帰り客で5,793円。
- 宿泊客の消費金額費目ベスト5は、宿泊代13,029円、サーモンフィッシングなどの参加費5,211円、宅配便代1,668円、飲食費1,560円、ガソリン代1,498円。
- 日帰り客消費で最も大きいのは、サケ・ホタテ海産物(鮮魚) 1,207円。

宿泊客が町内で使った費目(消費単価)ベスト5



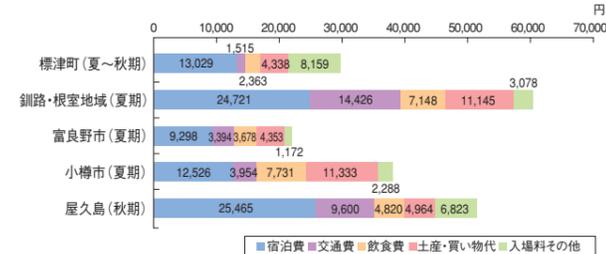
日帰り客が町内で使った費目(消費単価)ベスト5



富良野よりも高い宿泊客の消費額

- 宿泊客の消費額は富良野市よりも高い。しかし、泊数を考慮すると、1泊当たりの単価が低いと想定される。
- サーモンフィッシングなどの参加費、入場費の消費額は高い。

他地域との消費単価比較(宿泊客)

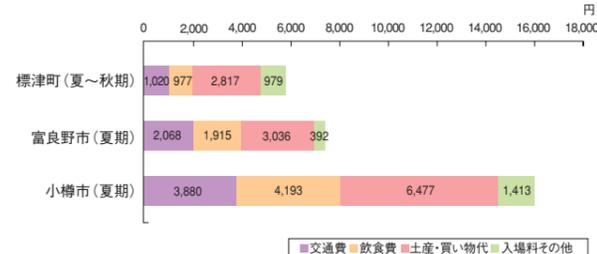


※参考資料：「富良野市観光経済調査報告書」、「小樽市観光経済波及効果調査報告書」、「共生と環境の地域社会づくりモデル事業(屋久島地域)報告書」

日帰り客の消費額はまだ伸びる可能性がある

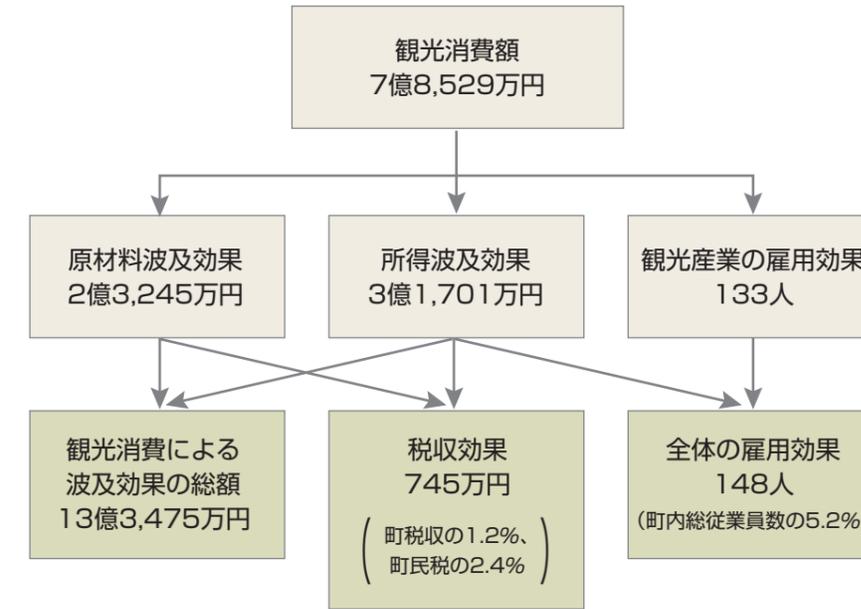
- 日帰り客の消費額は他地域と比較すると低い。魅力ある土産品があれば、さらに増大する可能性大。

他地域との消費単価比較(日帰り客)



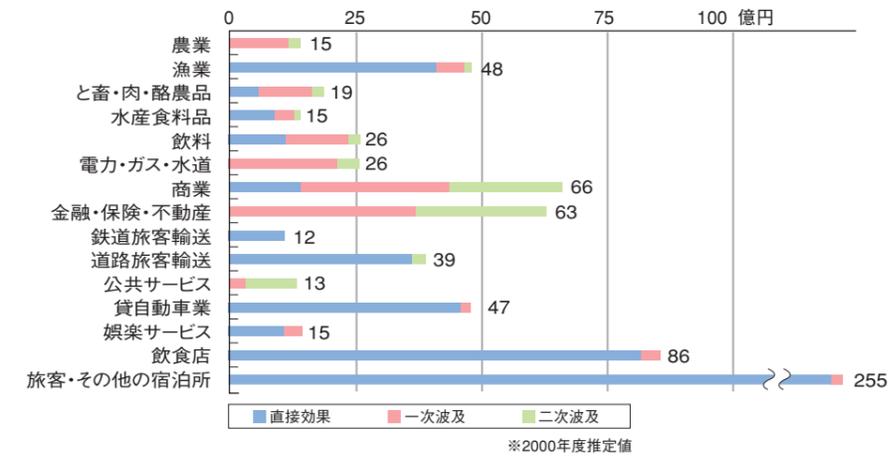
観光消費による経済波及効果について

観光消費による経済波及効果は13億3,475万円に



観光消費による経済波及効果は13億3,475万円となった。この数値は平成13年の農業産出額(農業粗生産額)81.8億円の16.3%、平成14年の漁業生産高53億8,266万円の24.8%(サケの生産高40億8,821万円の32.6%、ホタテの生産高9億7,483万円の136.9%)、平成14年の水産加工出荷額99億6,046万円の13.4%に当たる。また、観光消費額(7億8,529万円)のうち、原材料費を除く付加価値額は、2億7,808万円となった。

観光消費の効果は多様な産業へ波及しています



釧路・根室地域の産業別にみる観光消費の生産波及効果(釧路公立大学地域経済研究センター・財団法人日本交通公社「地域観光の経済効果分析と地域自立型産業への展開に向けての研究」より)

発展可能性のある観光産業

- 域内総生産に占める観光産業の付加価値の割合は、1.0%。
- 域内調達率の限界はあるものの他地域や諸外国と比較してみると、今後の発展可能性は大きい。

※弘前市は市民を除く。また、釧路・根室地域は日帰り・通過客を除く。
 ※経済効果は地域の広がりによって高めに算出される性質があり、区<市町村<都道府県<国の順番で数字は高くなります。
 ※参考資料：「弘前市観光産業経済波及効果調査」、「沖縄県における旅行・観光の経済波及効果調査」

域内総生産に占める観光産業の付加価値の割合

